

# 混沌とした中から

## 最新ウイルステクノロジー (1)

コンピュータウイルスについては4年半前に「ハッキングの方法」として解説したことが有ります。その当時もコンピュータウイルスを作るソフトがインターネット上で公開され、それほど知識が無くても作れると書きました。先日も中学生の作ったウイルスが発見され問題になったかと思えます。では、現在のウイルスを取り巻く環境はどうなっているのでしょうか。

以前との大きな違いが有ります。それは、これまではいたずら目的や自分の技術力の誇示が中心でしたが、そんな時代は終わったようです。今はウイルスは犯罪者の大事な商売道具の一つであり、すでにウイルスを取り巻くビジネスが確立しているということです。もちろん、ウイルスを作ってそれに対応したワクチンソフトを作るというビジネスではありません。今から4年ほど前までは一日に何回もウイルスが更新され、それに対応してウイルスパターンが更新されるということがありました。本当にウイルス作成者とワクチン作成者の追いかけっこです。全くいたずら目的であり、ウイルス作成者同士で非難合戦（ウイルスプログラムの中にメッセージを埋め込んで）があったりしました。それに対してこのごろはそんな小手先でちょこっとした改良にはその気が全く無いのか、新しいウイルスもあまり出てきていないのが現状です。だからといってウイルスがなくなったわけではないようですが、3、4年前になるとウイルスに感染したパソコンに侵入したり、ウイルスを撒き散らすメールを送信するだけでなく、ウイルス感染パソコンを使って迷惑（スパム）メールを送ったり、感染したパソコンから盗んだ情報（クレジットカード情報など）を売ったりすることがお金になることを犯罪にかかわる組織や個人が認識するようになって変わってきたようです。お金になるとなるとそこに犯罪者は集まります。当初はウイルス作成者がウイルスを広めていましたが、商売になると変わります。ウイルスのビジネスは分業制になっているようです。ウイルス作成者は商売がうまくなく、お金になるとなると集まってきた犯罪者はウイルスを作るほどの能力が無いわけですから当然の結果です。

いまは、ウイルスをばら撒く人がウイルスの作者から購入して感染を広げ、パソコンを乗っ取り、そのパソコンから迷惑（スパム）メールを送信する権限を有償で貸し出したり、感染したパソコンから盗んだ情報を売りさばいたりします。また、ウイルスを作成するツールも売買されているということです。ではこの費用がいくらぐらいかという、あるデータではウイルスの値段は安いもので25ドル、高価なもので500～800ドル程度で、さらに追加量を支払うと技術サポートすら受けることができるそうです。複数のウイルス感染パソコンで構成される「ボットネット（ウイルスを感染させ遠隔操作することができるようにしたパソコンに送り込む他のパソコンを攻撃するためのプログラムをボットと呼び、ネットワークを作り命令1つで一斉に攻撃を始めることのできるネットワーク）」のレンタル料の相場が75～750ドルだそうです。このボットネットを借りれば大量の迷惑メールを送信することが可能になります。このように完全にウイルスの市場が確立し、例えばウイルス逮捕者が出て抑止力にはならないといわれています。気をつけないと自宅のパソコンがボットネットに組み入れられ、いつの間にか迷惑メールの発信源になっているかもしれません。特に常時接続環境でパソコンを起動したままにしているパソコンでウイルス対策ソフトを入れていないものがあつたら危険です。（次回へ続く）

(今週の情報誌から)

○日経パソコン 4月14日号

特集 起動を速くしたい!

→Windows XPも使っているとだんだん起動が遅く感じられるようになって来る。このごろ多いXPの延命だとかと同じで起動だけに絞った特集。ちょっとでも速くするにはで出フラグしたりロゴを消したりハードを高速化したり、ちょっとのことでも積み重なれば・・。

○日経SYSTEM 4月号

特集 どう選ぶ? 仮想化製品

→以前解説したこともあるが仮想化製品(OSのみ)と実際に組み込んだハードの紹介。